

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム 幸

作成日: 平成 26 年 12 月 10 日

**目標達成計画書**

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	自己番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	職員全員で考えたホーム独自の理念があるが、職員一人ひとりが理念の意義を理解し、意識した介護になっていないので、申し送り時に、確認のために唱和したり、理念に基づいた介護の実践に取り組んでいく。	9年前の開設時に、当時の職員が考えた介護の原点の理念を、職員一人ひとりが常に意識し、迷ったり、悩んだ時も、理念を振り返り、初心に帰って、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいく。	6ヶ月
2	6	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、該当者はいないが、今後の事を考えて、日常生活自立支援事業や成年後見制度にて、外部の研修会に参加して、職員一人ひとりが権利擁護について、理解出来る体制を整えていく。	利用者の権利や財産を守ることは、ホームの義務であるので、外部や内部の研修会に参加し、報告会で職員全員に、制度の重要性を理解して貰い、資料やパンフレットを用意していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。